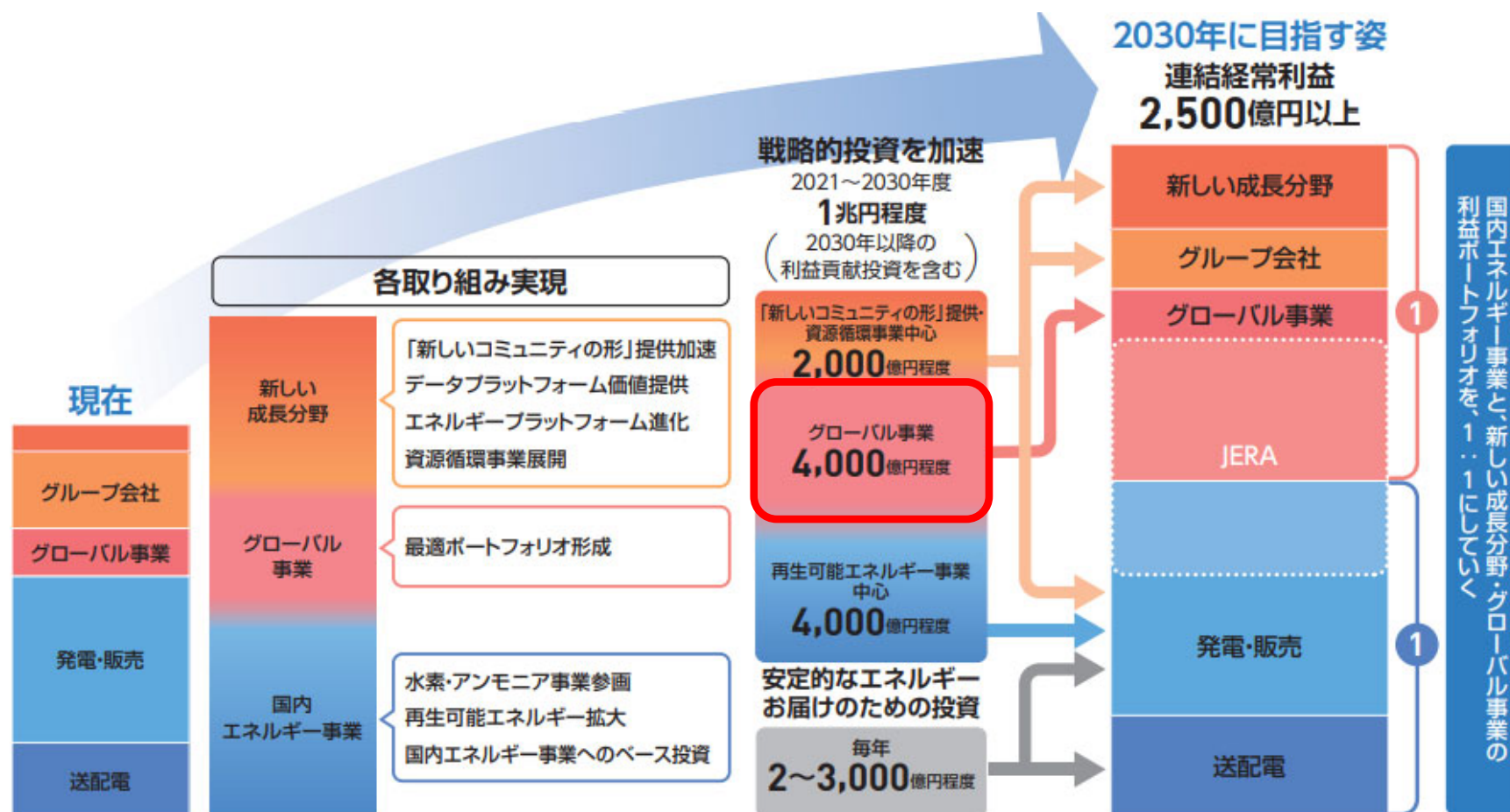


グローバル事業の取り組み

2025年11月14日
中部電力株式会社

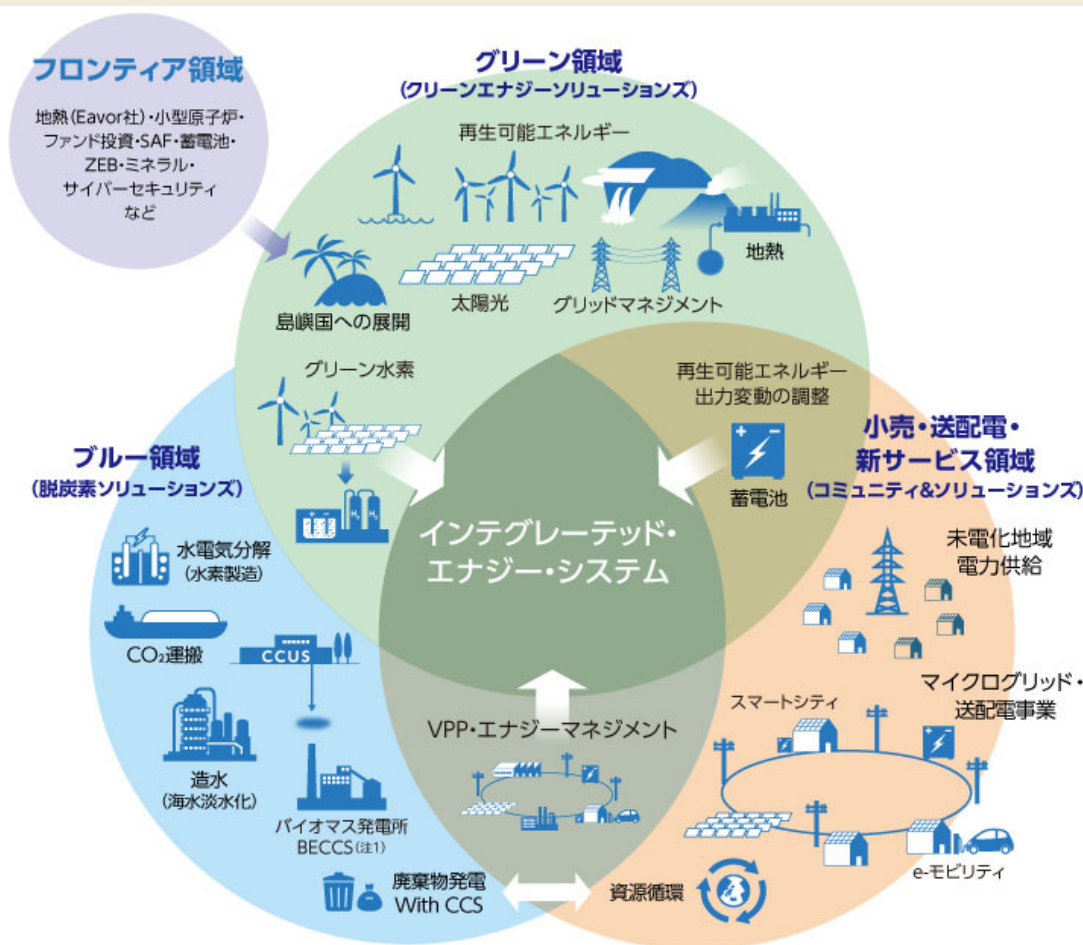
01 中部電力グループにおける戦略的投資

- 中部電力グループ 経営ビジョン2.0（2021年11月公表）において、グローバル事業を「**成長分野**」と**位置付け**、2021年度から2030年度までの間で**4,000億円程度の戦略的投資**を実施する。
- これまで以上に「**脱炭素**」につながる**事業への投資**を拡大し、戦略的投資を加速することで**世界の脱炭素化に貢献していく**。



02 グローバル事業の展開

・「グリーン領域」「ブルー領域」「小売・送配電・新サービス領域」「フロンティア領域」といったセグメントを組み合わせることで最適なポートフォリオを形成し、これまで国内事業で培った技術力、信頼関係や幅広い事業展開の強みを掛け合わせながら、グローバル事業を展開し、収益基盤の強化と利益拡大を図っていく。



(注1) CO₂回収・貯留付きバイオマス発電

(注2) 上記の図の事業は一例です

03【グリーン領域】ウズベキスタン 再エネ開発プロジェクト

- ・ウズベキスタンにおける**太陽光発電所、大型蓄電所（Battery Energy Storage System、「BESS」）を建設、保有、操業するプロジェクト**に、中東最大のIPP事業者*であるACWA、住友商事、四国電力と共同で出資参画した。（当社の参画は2025年10月）
- ・ウズベキスタン国内において**最大規模となる太陽光発電所を開発し、2027年以降の商業運転開始を目指す。**

*Independent Power Producerの略。独立系発電事業者。

【プロジェクト概要】

プロジェクト	サマルカンド太陽光発電・蓄電事業1、2
総発電容量	・太陽光発電所：計100万kW（50万kW×2拠点） ・BESS：計133.6万kWh（66.8万kWh×2拠点）
建設予定地	ウズベキスタン共和国 サマルカンド
電力供給	・ウズベキスタン国営送電公社へ25年間全量売電 (JSC National Electric Grid of Uzbekistan)
商業運転開始予定	Samarkand Solar・BESS1：2027年 Samarkand Solar・BESS2：2028年
出資比率	ACWA Power：51% 住友商事：約20.2% 四国電力：約14.4% 当社：約14.4%

【プロジェクトサイト位置】



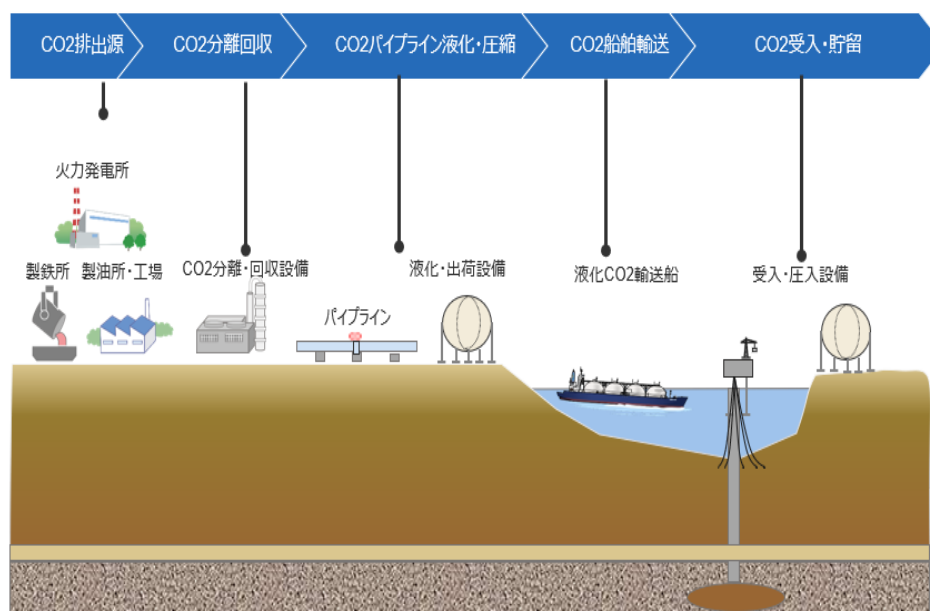
- ①【Samarkand Solar・BESS1】太陽光（10万kW）+BESS
- ②【Samarkand Solar・BESS1】太陽光（40万kW）
【Samarkand Solar・BESS2】太陽光（50万kW）
- ③【Samarkand Solar・BESS2】BESS

04 【ブルー領域】 名古屋港 CCUS事業

- ・名古屋港周辺に立地する発電所や製鉄所等を対象とした**CCUS事業***について、**2030年代初頭に営業運転開始を目指す。**
- ・現在、bp、サントス、INPEXの3社とそれぞれ協力協定を締結し、CO₂の輸送等に関する調査・検討を進めている。

*CO₂を分離回収後、パイプラインで集めて液化し、主に海外に貯留または国内外で有効利用する。

【名古屋港CCUSのバリューチェーン】



<名古屋港由来のCO₂排出量>

- ・年間約3,232万t（名古屋港CNP検討会による推計）
- ・日本のCO₂総排出量の約3%に相当

【CCSに関する協定実施内容】



パートナー：bp
タングーCCUSへの輸送に関する実現可能性調査、コスト最適化や法制度の課題整理、ビジネスモデルの検討等

パートナー：INPEX
ボナパルト堆積盆地へのバリューチェーン全体を通じた最適なCO₂輸送方法やスケジュール、ビジネスモデルの検討等

パートナー：サントス
ムーンバCCSへのCO₂の輸送に関する実現可能性調査

05 【小売・送配電・新サービス領域】 インド ミニグリッド事業

- ・電力供給が脆弱なインドの一部地域において、**太陽光発電と蓄電池を組み合わせたミニグリッド事業を展開するOMC**に、2022年9月より出資参画した。
- ・2024年11月には増資を行い、ミニグリッド事業の他、ルーフトップソーラー事業にも参入している。
- ・参画当時は1万kW未満であった太陽光発電は現在約5万kWに拡大している。
- ・**2030年代には太陽光発電を約50万kWへの拡大を目指す。**

【事業エリア】



【ミニグリッド事業】

- ・既存の大規模送電系統とは接続せず、独自で発電から送電・配電まで行う事業
- ・現在、ミニグリッドの拠点数は約500カ所



【ルーフトップソーラー事業】

- ・病院や大学等の公共施設の屋根に、太陽光発電設備を設置する事業
- ・設計、調達、建設までをOMCが実施



06 【フロンティア領域】 アメリカ 小型原子炉開発事業

- ・次世代革新炉の1つである小型原子炉（Small Modular Reactor: SMR）を開発するNuScaleに、2024年11月より出資参画した。
- ・2025年9月に、テネシー川流域開発公社Tennessee Valley Authority（TVA）とENTRA1 Energy（NuScaleのマーケティング・営業活動を一手に引き受けている企業）が、**アメリカ テネシー州において、NuScaleの小型原子炉を採用した原子力発電所6プラント（最大600万kW）を開発することを公表した。**

【NuScale概要】

- ・小型原子炉の設計・開発を行い、商業化を目指す米国企業
- ・同社の開発する小型原子炉は、米国原子力規制委員会から、米国において初めて設計認証を取得している

会社名	NuScale Power Corporation
本社	アメリカ・オレゴン州 コーバリス
沿革	2007年
代表者	John L. Hopkins（President & CEO）
事業内容	小型原子炉の設計・開発を行い、商業化を目指す
出資者	Fluor Enterprises, Japan NuScale Innovation（日揮、IHI、国際協力銀行、中部電力）他

【 NuScaleが開発する小型原子炉】

- ・工場で組み立てられるほど小型
- ・負荷追従運転が可能であり再エネ出力変動にも対応可能
- ・燃料サプライチェーンが西側諸国だけで完結可能
- ・外部からの電力・冷却水供給が不要
- ・事故時においても運転員操作が不要

